歌

焚火は消された、
血の痕は拭はれた、（すっかはれた、）
もう唄うまい　わたしは
満ち足りと　夢と希望を、

わたしの唄は　はた〳〵と鳴る夜の旗
武器を押しやる　をんなの　眼、

おゝ　愛する　ゆえに忘れない、
生きている　ゆえ　わすれない、

お前の頸に　匂うのは
円形場に　裸で追はれ　滅されたローマの乙女、

お前の肩にのゝし（する）のは
おしつぶされた妹が　焔の中でふる　腕、

おゝ　愛の中なる　数々の　[illegible]　ゆえに
（闇夜の怖れに　とりてもふる　絶望、）

（あけぼのの　[illegible]　もつように、）
（めざめの　涙の光を）

[illegible]　火は消され、血は拭はれたそのゆえに、
たえかたいすべての　祈りをもつように、
（万人の　みんなの　ままへ　の　祈りの）　祈りの中に　高くされる　ように、